

ユニケージ<sup>®</sup>開発手法導入レポート

# 日本農業新聞

新聞社／農業専門新聞／発行部数 35 万部／売上高 88 億円 (2009 年度)



usp lab.



信頼される市況情報の提供に不可欠な  
安定性・拡張性に優れたシステム基盤を構築できました。  
日本で唯一の農業専門紙として業界の活性化に挑戦し続けます。

## 全国14市場の販売データを集約。リアルタイムな市況情報の算出・速報にシェルスクリプトとコマンド群を駆使

株式会社日本農業新聞 編集局長 永井考介氏 編集局 農政経済部部長 吉田聡氏インタビュー

日本農業新聞が、「2012年度 日本新聞協会技術委員会賞」に輝いた。受賞したのは「新市況システム2010」。農畜産物の当日販売実績データに基づいて、それまでなかった市況情報の即日提供と指数化、Web発信を実現した。農業・流通・食品業界の活性化に寄与する本システムの構築にユニケージ開発手法を採用した経緯を同社 編集局長の永井考介氏、今後の展望などを編集局農政経済部部長の吉田聡氏に伺った。

——「新市況システム2010」の概要および特長を教えてください。

永井：新市況システム2010は、2本立てのシステムです。青果などの市況動向を

示す数値や指標を算出・表示する「日農INDEX」。そして、それらの情報を本紙の読者向けにより早く詳しくWeb上でお届けする「netアグリ市況」からなります。

### 幅広い業界が注目する “青果物の日経平均”

永井：日農INDEXは、全国7市場における主要青果のキロあたりの単価および販売量に基づいてその日の中心価格を即座につかめる「日農平均価格」と、日々の販売額に基づいて青果の需要度合いや取引の勢いを時間軸に沿って俯瞰できる「NOPIX」（日農市況指数）の2つで構成されます。

市況情報を利用する主な本紙読者は、農

業・食品・流通業界の関係者です。産地の生産・出荷、市場内外での取引、小売や外食・食品メーカーの仕入れ、直売所の値決めなどの検討材料として役立つ市況情報の提供は、本紙の役割を強化するものです。

——そもそも開発のきっかけは。

永井：1928年に創刊した「市況通報」以来、生産者をはじめ、加工、流通、小売業者の経営に欠かせない市況情報を当社は長年提供してきました。ただこれまでは、農林水産省が提供する有料のデータに依拠しており、最新市況を知るには翌日の本紙掲載を待たなければなりませんでした。しかし、ITを活用すれば、より早く詳しい情報をWeb登録会員に届けられます。新シス



NOPIX 値 (右下) の算出に必要な季節変動係数は日々変化するため、過去の NOPIX 値を毎日再計算する必要がある。だがユニケーj 開発手法を用いることで、NOPIX グラフを作成するまで 0.6 秒、各卸の販売額から過去の全指数を計算する時間は 1 秒程度で済む。

システムの構想案は 2009 年 7 月にできました。

その日の販売実績値を集めるために、全国 7 つの市場 (東京、大阪、名古屋、札幌、仙台、広島、福岡) 各地区の大手卸 7 社のご協力を得て、当日中に販売集計データを提供頂ける体制も整いました。各卸から送信されたデータを当社で集約し、「日農平均価格」などを算出。結果は紙面より一足先に、Web 上に公開しています。

### ——読者や関係者の反応はどうでしょうか。

吉田: 2012 年 7 月時点で、「net アグリ市況」の会員数は 7,700 人を超えます。生産者が 5 割、そこに JA、流通、食品加工、外食、マスコミなどが続きます。「相場動向を分析でき、生産・出荷計画の参考になる」「直売所や相対取引での直決めの参考になる」との評価を頂いています。

## 要件をその場で洗い出し どんどんシステムを作る

——システム開発にあたってユニケーj 開発手法を選択した理由を教えてください。



日本農業新聞  
編集局 農政経済部部長  
吉田聡氏

永井: 新しい試みですから、対応するパッケージ製品は見当たりません。社内でもおおよその青写真しかなく、走りながら形にしていきました。要望を USP 研究所の開発スタッフに伝えるとその場でシェルスク립トを駆使し、収集・蓄積した販売実績データを加工・集計、Web 画面に表示するシステムを作ってくれます。それを私たちが見て修正を依頼する。開発・修正を行うエンジニアが現場に密着して対応してくれます。この対応の早さが、構想から半年で構築できた要因です。

もう一つが、システム開発費の低コスト化による採算性の追求です。各種データの集計・表示に加えて、新聞紙面用のデータ作成・送信を行う以上、システムの安定稼働が不可欠です。一般的な汎用データベースを使ったシステムでは複雑な障害対策を講じる必要がありましたが、Linux OS 上でテキストファイルをシェルプログラミングで制御するユニケーj 開発手法により、簡素かつ安定したシステムを構成できました。コストメリットを追求するだけならばオフショアに出す方法もありますが、要件を決めてから出す、コミュニケーションが難しいといった懸念もあります。走りながら作るのは無理だったはず。なお、今回投じた初期コストは、当初他社で見積もった金額の 1/2 以下でした。これは本紙購読者の維持・増加により十分回収できる金額です。

### ——市況データの算出処理や表示の速度も、サービス品質と切り離せませんね。

永井: そうです。例えば日農平均価格では、本紙で野菜 14 品目、果実 12 品目について、net アグリ市況で各々 96 品目、69 品目について前年、前々年、過去 4 年平均分などと中心価格を比較できます。一方、NOPIX では正確な相場水準を算出するため、最新データをもとに補正処理を毎日かけています。これらの比較・再計算・グラフの描画を含めてユニケーj 開発手法は非常に処理が高速です。一般の汎用データベースを使えば、過去データを再読み込みするだけで時間を要し、データ増によりレスポンスが劣化するでしょう。



日本農業新聞  
編集局長  
永井考介氏

## 機能や画面を拡充しやすい 柔軟性に富んだシステム

——2011 年春には新たに花市況のシステムも稼働されましたね。

吉田: 既存システムの拡張で構築しました。ユニケーj 開発手法を活用し、開発・運用の一貫性を保っています。新市況システム 2010 が基盤となり、利用者の要望に応える機能やデザインの追加・変更が容易に行えるなど融通がきく点を評価しています。

### ——今後の展開については。

吉田: より多くの利用者にアクセスしてほしいと考えています。当面の目標は「会員数 1 万人突破」です。それに向け、2012 年秋にリニューアルを予定しています。日農 INDEX では、市況データの読み解き方、将来の動きを知る上で便利な記事情報の提供、当社のホームページ「e 農ネット」との連動といった機能とコンテンツの拡充を進めています。

もう一つがデザインのリニューアルです。利用者が欲しい情報をすぐに探せる見やすい画面の開発を行っています。USP 研究所のパートナーシップに期待しています。

今後も関係各社の協力を得ながら、当社の提供する市況情報や指標が、産地および業界の期待に応えられるよう、そして市況の代名詞と言われるように挑戦し続けます。



会社名: 株式会社日本農業新聞

所在地: 東京都台東区秋葉原 2-3

資本金: 9 億 1240 万円

従業員数: 310 名 (2010 年 4 月 1 日現在)

ユニケーj 開発手法に関するお問い合わせは

**有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所**

東京都港区西新橋 3-4-2 SS ビル 3 階

TEL: 03-3432-1174 E-MAIL: koho@usp-lab.com

http://www.usp-lab.com